



同窓会だより

最近の同窓会の取り組み

新潟大学歯学部同窓会 会長 多和田 孝 雄



今年は平穏な年になると
思い始めていた矢先の7月
16日(月)午前10時過ぎに新
潟県、長野県を中心とした
大地震が発生してしまいま
した。未だ台風4号の同窓
生に与えた影響も未調査の

うちに今回の地震に取り組まざるを得なくなりましたが、理事各位の早急な対応により「新潟県中越沖地震」で大きな被害を受けた同窓生はいないことが、直ちに確認されました。しかし、一般の方々の被災は深刻で、心からのお見舞いと一日も早い復旧を祈ります。

さて、全学同窓会においては、本年1月にゴールドカード「新潟大学カード」の発行に漕ぎ着けました。全学同窓会は連絡協議会時代を含めても未だ僅か3歳の若い同窓会です。何故このような若い同窓会が、何十年の歴史のある同窓会でも困難なカードの発行を短期間で成し遂げたのか。その多くは歯学部同窓会から委員として全学同窓会に参加している佐藤定雄歯学部同窓会副会長と福島正義学術理事の尽力によるものです。会長として、歯学部同窓会として誇りに思います。2007年6月末現在の1,436名の加入者中、歯学部同窓会からは129名の参加者がありました。会員10万人と言われる全学同窓会において、僅か会員総数2,000名の同窓会としては、立派な数字です。本件との関わりもありますが、歯学部同窓会では、学内外の卒業生以外の方を対象とした賛助会員の募集にも今後力を入れたいと考えております。現在もしくは過去において少しでも歯学部に関わって来られた方は全て対象です。これまではお返しできるメ

リットが少ないことから控えておりましたが、今後は積極的に勧誘したいと考えます。賛助会員の件につきましては、大島勇人総務理事を中心としたチームが取り纏めました。

歯学部同窓会として今後しばらくは、会員の就職支援システムの構築と歯科医院承継システムの構築を中心として動くこととなります。歯学部同窓会は全国に支部もしくは都府県代表幹事を配置しており、会員の為の幅広い求職、求人活動を開始する予定です。歯科医院承継システムの構想は、後継者のいない同窓の先輩の歯科医院を後輩が引き継ぐというものです。第1期生は皆さん還暦を越えたと思います。然るに若い先生方は、現状の歯科界の厳しさから多額の開業費を投じての開業には不安を感じていると思います。先輩、後輩という極めて高い信頼関係をベースとして、双方にメリットのあるこのシステムを構築したいと考えます。

平成19年度同窓会総会を終えて

同窓会専務理事 成 田 秀

日時：平成19年4月14日(土) 午後4時30分～
場所：歯学部2F大会議室

昨年の記録的な寒かった冬とはうって変わって、新潟市は1月2月は積雪もほとんど無く、私の歯科医院では除雪も融雪パイプを稼動することも無いのはじめての冬を過ごしましたが、その割には3月4月は春の訪れが遅く、結局例年並みの開花時となった歯学部の桜も満開の花を咲かせ、冷たい風に花びらを散らせはじめた花冷えのする4月14日に平成19年度歯学部同窓会総会が開催されました。今回も昨年同様、同窓会総会学術講演会（講師：網塚憲生教授）のあと、予定時刻より10





分ほど遅れての開催となりました。

開会に先立ちこの一年間で亡くなられた野原廣美名誉教授(平成18年4月20日逝去)、田口政晴先生(1期・平成18年5月19日逝去)、羽中田香先生(12期・平成18年6月18日逝去)、奈良井省太先生(32期・平成19年4月14日逝去)のご冥福を祈り全員で黙禱を奉げました。特に奈良井先生はこの総会の日の朝になくなられたという悲報に接し、32期という歯学部卒業後まだ5年の若い前途有望な人材のご逝去には、本人のご無念、ご遺族の皆様のご心痛を思うと世の無情を嘆かざるを得ませんでした。

続いて会長から挨拶があり、この一年間、役員 の尽力、会員の協力、学部の支援等で様々な面で同窓会活動に成果が見られた。たとえば、口腔生命福祉学科生に歯学部同窓会の活動を説明し、理解を得られたので歯学科生同様に卒業後歯学部同窓会に受け入れることが決まった事とか、個人情報保護の意識の高まりに対し新潟大学歯学部同窓会個人情報保護基本方針と同窓会名簿取扱指針を制定しそれに基づいて同窓会名簿を発行した事とか、さらに昨春発足した新潟大学全学同窓会においても、歯学部同窓会は重要な役割を果たしており、特に「新潟大学カード」創設に当たっては歯学部同窓会の役員が中心となり尽力し、全学同窓会での歯学部同窓会の評価を高めることが出来た事。また、歯学部からの要請を受けスリランカからの留学生の支援を行い、歯学部との連携を深めることができた事など。

そして、今後の同窓会としての検討事項としては、1)「会員一人ひとりを大事にすることにより、会員からも大切にされる同窓会作り」の観点から、準会員である歯学部生の国家試験対策支援や、研修医へのサポート・アドバイスの実施。2)「会員にメリットのある同窓会作り」のための、会員の就職支援、現役引退会員から若手会員への歯科医院継承システムの構築、現在行っている同窓会各種事業の発展継続および新たな事業の模索。3)

「強い同窓会作り」のための、歯学部同窓会独自の同窓会館(室)の設立により大学への依存度を

低下させるとともに大学支援を図ること。全学同窓会へ歯学部同窓会からの役員を増員し積極的に参加することによる全学同窓会内での地盤の強化。そして歯学部同窓会への賛助会員の受け入れを行い組織強化を図る事。についての必要性を述べられた。

その後、鈴木総務理事の議長の下、平成18年度事業報告、18年度一般会計決算および特別会計決算報告、19年度事業計画、19年度予算案と議事は進行し、いずれも慎重審議の結果満場一致で承認されました(詳しくは総会議事録を参照してください)。特に印象深く思えた事は、会費納入率が前年度の58.2%から60.1%に上がったことです。近年会費納入率は毎年毎年徐々に低下してきていましたが、昨年度は上昇したことは多和田執行部の活動が会員の皆様からそれなりの評価をいただけられた現れと感じ、役員の一員として大変ありがたく思いました。また逆に残念なのは、新潟県支部と共催してきました学術の定期セミナーが今年度から取止めになった事です。今後は別の形で会員サービスとしての新たな企画が登場する事を願ってやみません。

多和田会長のスローガン、「会員一人ひとりを大事にする事により、会員からも大切にされる同窓会作り」・「会員にメリットのある同窓会作り」・「強い同窓会作り」を実行するために同窓会では日々模索しています。どうか会員の皆様の声をお聞かせください。ご意見・ご批判・ご提言なんでも構いません。そのような声の中から歯学部同窓会の更なる発展の糧となるものを見出し、お応えして行きたいと思えます。今後も会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。





平成19年度新潟大学歯学部 同窓会総会学術講演

「骨質を踏まえた歯科領域の骨再生に関する組織学的知見」を聴講して

18期生 山 賀 雅 裕

歯学部駐車場の桜が満開となった4月14日、同窓会総会の学術講演として企画された網塚憲生先生の講演を聴講した。先生は本学18期生で、小澤英浩教授門下で硬組織研究の道に進まれ、現在は新潟大学超域研究機構教授に就任されている。

最初に骨の基本構造について説明があり、それを踏まえたうえで、骨質の概念について解説された。従来は骨密度が骨の強さの指標であったが、骨が脆かったり、吸収が進んでしまうケースでは、密度だけでは骨の強さを評価できず、質についても考慮されるようになってきたそうである。骨密度と骨質が骨強度に寄与する割合は7対3程度と推定されているが、骨質には骨代謝回転の速度、微小骨折の蓄積、骨基質タンパク、石灰化度、骨の高次構造などが複雑に関与しているため、その定量化は今後の課題とのことであった。

次に、動物実験の結果から、骨再生に用いる補填材は「骨形成先行型」と「骨吸収先行型」に大別されることを示された。前者は早期から多量の骨を形成するが、長期的には骨髄組織が多いやや弱い骨となり、後者は初期の骨形成量は少ないものの、その後は強い骨が維持されるとのことであった。インプラント植立や歯周組織再生など、骨再生に関連する治療の成功率を向上させ、安定した予後を得るためには、今後も生体材料の研究開発が重要で、歯科出身の研究者がその中心を担うべきと、決意を込めて語られた。

最後に、ステロイドとビスフォスフォネートが骨組織に与える影響について概説して頂いた。ステロイドは骨細胞を、ビスフォスフォネートは破骨細胞をターゲットとしており、いずれも長期投与によって骨質が低下するという。詳細な機序は不明とのことであったが、放射線療法後と同様、

顎骨壊死など深刻な事態を招くこともあり、日常臨床で注意が必要なことを改めて認識した。

網塚先生が映し出される組織写真やイラストは芸術的に美しく、ソフトな口調で語られるストーリー展開も鮮やかで、さながら良質の科学番組を見ているかのようであった。また、講演後の質疑応答も活発で、母校の先生方が研究、臨床に心血を注がれている姿が心強く、同窓生として誇らしく感じられたすばらしい講演会であった。

2006年度第2回歯学部教授会 同窓会定期協議会

18期 渉外担当 飯 田 明 彦

標記会議が開催されましたので、以下に報告いたします。

- I 日 時 平成19年2月8日(木) 19時10分~20時40分
- II 場 所 歯学部特別会議室1
- III 出席者 教授会：山田学部長、宮崎副病院長
同窓会：多和田、佐藤、宮野、鈴木、成田、飯田

IV 報告・議題

1. 歯学部から

1) 歯学部周囲の道路拡張の件

- ・国道の拡幅工事は終了した。それに伴い桜の木は移転となった。
- ・歯科外来棟の正面玄関前の道路もバス路線導入のために拡幅工事を行っている。

2) 口腔生命福祉学科の大学院設置に向けた準備

- ・修士課程の設置に向けて準備を進めている。どういう学生を集めどういう卒業生を育てていくかを検討している。

3) 現代GP採択の件

- ・教育の設備充実をはかっていく。具体的には学生の厚生施設、バリアフリー化などである。

4) 学部長の交代

- ・学部長は4月1日から前田健康教授に交代





する。

- ・副病院長候補は齊藤力教授に決定した。

2. 病院から

1) 最近の病院の動きについて

- ・統合後、諸問題はあるものの全体的に状況が安定してきた。
- ・病院統合に関しては現在中央診療棟の工事を行っている。今後外来棟の統合に移行していく。
- ・臨床教育に関して、総合診療部の専任教員が中心になって実績を上げている。患者数は1か月約1,000人にのぼる。2年目の研修医も10名採用することとなった。外部の医療機関で研修医を採用していただくと、医員を採用できるので協力をお願いしたい。
- ・インプラント治療部、摂食嚥下リハビリテー

ションも軌道に乗ってきた。

3. 同窓会から

1) 同窓会総会日程について

- ・来年度の歯学会総会が従来の4月第3週から第2週に変更になったことから、同窓会総会の準備が困難な状況である。解剖体祭の日程などもあり、今後学部、同窓会が合同で日程を協議していく必要がある。

2) 新潟大学カードについて

- ・新潟大学カードが発行になった。加入者増加のために協力することとなった。

3) 個人情報に関する同意書について

- ・同窓会の新入会員に対して、個人情報保護に関する同意書をとることになり、大学からの郵送物に同封する方向で検討することとなった。

